



「借りる」という選択肢を考える

——それって本当に買ったほうがいい？

必要なモノがあったとき、あなたの頭の中に「新品を買う」以外の選択肢はあるだろうか。スマートフォンやソーシャルメディアの普及に伴い、ネットオークションやフリマアプリなどで中古品を検討する人は増えているだろう。そこにも一つ「借りる」という選択肢を加えられないだろうか。

■買う前に一度立ち止まってみよう

その昔、「モノを持っている」ことは豊かさの象徴だった。だが、大量生産、大量消費社会の到来により安くモノが手に入られるようになると、我々の生活空間にはモノが溢れるようになっていった。モノに囲まれることで、かえってモノにしばられるという弊害が出てきた。

そんな生活を見直そうという動きが、広がっている。不要なモノは思い切って処分し、シンプルライフを実現することで、空間や時間が有効に活用できるようになり、ストレスをも減らすことができる。

不要なモノを処分する際、「本当に買う必要があったのか？」と自問したくなることもある。せっかく買ったものの、それほど使わなかったり、一度も使わなかったり。

家具や家電製品など、処分するにも費用や手間がかかるものもある。ゴミ処理問題など環境負荷という観点から考えると「捨てる」という行為はできるだけ避けたい。

だったら、最初から「借りる」という選択肢を考えてみることも「あり」ではないだろうか。「高額なモノ」「使用頻度が少ないモノ」「期間限定で使うモノ」であれば、買って所有するよりも借りたほうがおトクなことも少なくない。例えば「車」である。

■普及が広がるカーシェアリング

住宅資金、教育資金、老後資金は家計の三大資金と言われるが、車にかかる費用も家計にとっては大きなウエイトを占める。購入費はもとより各種税金や保険料、駐車場代、燃料代などランニングコストもあなどれない。車が生活の足となっているのであれば

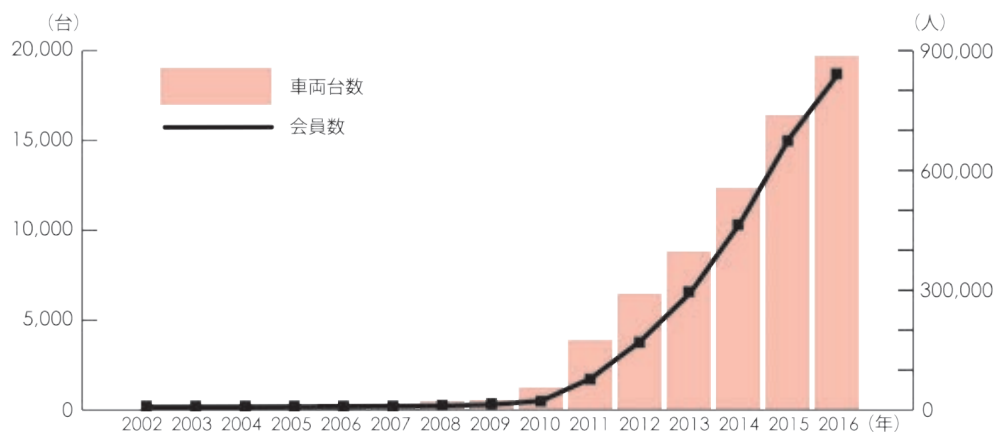


必要経費だろうが、めったに乘らないのであれば、カーシェアリングも選択肢の一つになる。

カーシェアリングは、車を個人で所有せず、会員になって必要な時だけ利用する仕組みだ。環境問題への意識が高いスイスやドイツで1980年代からスタートし、日本では2002年から導入されている。

【図表1】はわが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移である（公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団調べ）。年々、利用が拡大していることが見てとれる。運営については、同じ地区に住む住民たちが1台の車を所有し共同で利用しているケースもあれば、民間企業が多く車を所有し広

【図表1】わが国のカーシェアリング車両台数と会員数の推移



出典：公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団HP

域でサービスを提供しているケースもある。所有する車の台数は一社当たり1台から数万台、その会員数は10人以下から数十万人と規模も様々だ。

その中から、全国展開し会員数、所有車両台数ともに最も多い「タイムズカープラス」を運営するパーク24株式会社を訪ね、企画管理本部グループ企画部の渡邊さんに、同社のカーシェアリングについて話を伺った。

【図表2】レンタカーとカーシェアリングの違い

	一般的なレンタカー	カーシェアリング (タイムズカープラスの場合)
貸出時間単位	6時間～	15分～
貸出場所	レンタカー店舗	ステーション (配備駐車場)
貸出手続き対応	有人	無人
受渡し時間	店舗営業時間内	24時間
乗り捨て	できる	できない
月額料金	無し	有り
料金体系	6時間、12時間等	15分単位、パック
ガソリン代・保険料	別途かかる	利用料に含む
車種	多種多様	乗用車が中心

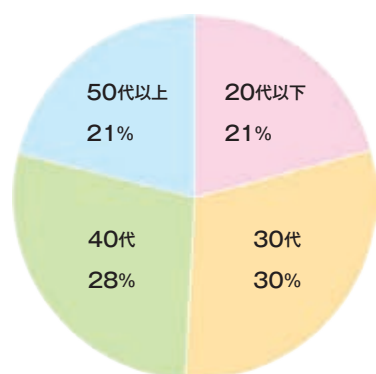
カーシェアリングの利用条件は事業者によって異なります。当社の場合、一般的なレンタカーとの違いは大きく3つで「車の受渡しが24時間できる」「貸出手続き対応が無人」「15分単位での貸出が可能」。

当社のカーシェアリングは、会員になれば、全国のステーションに配備されている車の中から、いつでもどこでも、使いたい車を選んで利用いただけるサービスです（詳しくは次ページの【図表4】を参照）。

Q カーシェアリングとレンタカーの違いは？

■カーシェアリングサービス

【図表3】会員の年齢層



現在、毎月1万名以上の入会がありますが、「これまで電車を利用していて車を持つことがない」等、入会される方の多くは車に触れていなかった方です。「気軽に使えるし、ちょっと使ってみようか」となるようです。

利用者の年齢は、以前は30代と40代で約7割を占めていましたが、最近では20代の利用が増えてきました【図表3】。20代はシェアすることに對するハードルが低く、経済的に合理性があれば車もカーシェアリングという選択になっているようです。

入会のきっかけで圧倒的に多いのは「近くにカーシェアリングのステーションができた（あった）から（47%）」で、以降「自家用車を手放したことを機に（23%）」「転勤や引越しなど居住環境が変わった時（18%）」の順となっています。

Q 利用者はどんな人ですか？

分という短時間から使える」となっています。その他、【図表2】のような違いがあります。



【図表4】カーシェアリングの利用の流れと利用料金の一例（タイムズカープラスの場合）

〔利用の流れ〕



〔利用のルールとマナー〕

- ・出発前に自分自身で必ず点検（道路輸送車両法第47条の2に定める日常点検整備）
- ・運転者は登録者（複数名の登録可）
- ・すべての車で車内禁煙
- ・ゴミは各自で持ち帰る
- ・ペットの同乗は禁止
- ・灯油の積載は禁止
- ・車は出発したステーションに必ず返却
- ・予約した時間内に返却

〔利用料金〕

入会プラン	個人プラン	家族プラン	学生プラン	法人
会員カード発行手数料	1,550円			648円
月額基本料金	1,030円			無料

* 月額基本料金は利用料金に充てられる



*利用料金の中にはガソリン代も含まれる		ベーシック (デミオ、プリウス等)	プレミアム (Audi、MINI等)	距離料金
ショート料金		206円/15分	412円/15分	なし
パック 利用料金	6時間パック	4,020円/回		
	12時間パック	6,690円/回		
	24時間パック	8,230円/回		
	アーリーナイトパック（18時～24時）	2,060円/回		
	レイトナイトパック（24時～翌9時）	2,060円/回		
	ダブルナイトパック（18時～翌9時）	2,580円/回		
				16円
				×
				走行距離（km）

考えると、車の新規利用者をカーシェアリングが掘り起こしたと言えるかもしれません。

実際、退会者の約2割は「車の購入」が退会理由です。カーシェアリングを利用したことによってその魅力を体感し、「自分の車が欲しくなった」という方もいれば、「子どもが生まれて車を購入するから」というようにライフスタイルの変化が背景にある方もいます。

Q 地方での利用状況は？

都心部では、家の近くのステーションにあるカーシェアリングをマイカー代わりに利用する人が多いようです。

一方、地方では、旅行などで訪れた人が移動の足として利用したり、地元の人がセカンドカーとして利用したりされています。地方では車の所有率が高い傾向にあります。が、「家に1台あるが、利用が重なってしまつたときは、1人はカーシェアリングを利用する」「家の車は大きくて運転しにくいので、免許を取り立ての子どもはカーシェアリングのコンパクトカーを使う」などといった理由もあるようです。

また、法人会員の場合は、地元の企業も使われますが、他のエリアからの出張で訪れた方が利用されるケースもあります。

Q 車のメンテナンスはどうされているのですか？

ほぼ2週間に1回、グループ会社のスタッフ

がステーションを回って、車のメンテナンスや車内清掃、給油などを行っています。当社は全国約1万6000カ所を展開する時間貸駐車場「タイムズ」を事業の柱としており、駐車場のメンテナンスや集金などを行うグループ会社のタイムズサービスによって、カーシェアリングの車のメンテナンスも効率的に行っています。

Q 車の予約が取りにくいことはありませんか？

個人会員が6割以上を占めるので、利用が土日偏つてしまう傾向があります。そのため、ステーションによつては土日だとなかなか借りられない時間帯もあるというのが、正直なところです。

全国で使えるように展開エリアを拡大するとともに、車の稼働状況を分析して、需要の高い場所への車の配備を増やすなどして、借りられない状況をつくらないよう努めています。

Q 車をぶついたり、傷つけたりしたら？

ご利用中の万一の事故に備え、利用料金の中にはあらかじめ保険料が含まれています。補償内容は、対人補償、対物補償、車両補償、人身傷害補償で、搭乗者傷害は付いていません。ですから、車をこすつたり、多少傷つけてもカバーされますが、営業補償として別途2万円をお支払いいただくこととなります。

レックカー車が必要なほどの破損の場合は5万円になりますが、その営業補償も免除になる「TCP安心保障サービス」もあります。ただし、会員の貸渡約款違反等により、補償の適用を受けられない場合があります。

■探してみると結構いろいろある レンタル商品

ここまでタイムズカープラスを例に、カーシェアリングの仕組みについて見てきた。カーシェアリングは利用料金が安いのが魅力だが、実際、車を所有した場合と比較してどうなのだろうか？ その一例を次ページの【図表5】に掲載したので、参考にしていただきたい。

ところで、車以外にも、個人がレンタルできるものは意外と多い。DVDやCDなど映像・音楽ソフト、結婚式やパーティー用の貸し衣装、バッグや靴などの小物はよく知られるところだが、それ以外にも多種多様なモノがある。単身赴任時に便利な家具、冷蔵庫や電子レンジ、洗濯機などの家電製品、ビデオカメラやプロジェクタなどAV機器、バーベキュー用品、テントや寝袋などのアウトドア用品、トラベル用品等々。探してみると、結構いろんなものがレンタルできる。

特に充実しているのは、使用期間が限られるベビーベッドなどのベビー用品と、条件によっては介護保険制度も使える介護用品・福祉用品のレンタルだ。この分野につ

「借りる」という選択肢を考える


【図表5】 首都圏在住のサンデードライバーのケースで比較

車を所有？ or カーシェアリング？

車を所有

* 40代・コンパクトカー・首都圏在住

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
車両本体価格	1,325,160 円				
オプション設置価格	96,120 円				
リサイクル料金	9,000 円				
自動車取得税	33,100 円				
自動車重量税	24,600 円		7,500 円		7,500 円
自動車税	29,500 円	29,500 円	29,500 円	29,500 円	29,500 円
自賠責保険料	36,780 円		25,830 円		
新車購入時諸費用・手数料	65,727 円				
(購入時小計)	1,619,987 円				
自動車保険料 (任意保険・30歳以上)	40,000 円	40,000 円	40,000 円	40,000 円	40,000 円
車検整備・法定点検・オイル交換等	20,000 円	20,000 円	50,000 円	20,000 円	50,000 円
タイヤ交換等					45,000 円
燃料代/年間走行距離2,000km (燃費20km/ℓ、1ℓ当たり130円で計算)	13,000 円	13,000 円	13,000 円	13,000 円	13,000 円
駐車場代 (月額15,000円)	180,000 円	180,000 円	180,000 円	180,000 円	180,000 円
合計	1,872,987 円	282,500 円	345,830 円	282,500 円	365,000 円

※ 車検は36カ月目・60カ月目、法定点検は12カ月目・24カ月目・48カ月目に実施

カーシェアリング

* タイムズカープラスに入会・月4回使用 (2時間×3回、12時間×1回)・年間走行距離2,000km・個人プラン・ベーシック

	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
入会時会員カード発行手数料	1,550 円				
基本料金 (月額1,030円×12カ月・ 利用料金充当分を含む)	12,360 円	12,360 円	12,360 円	12,360 円	12,360 円
利用料金充当分	-12,360 円	-12,360 円	-12,360 円	-12,360 円	-12,360 円
利用料金	165,848 円	165,848 円	165,848 円	165,848 円	165,848 円
合計	167,398 円	165,848 円	165,848 円	165,848 円	165,848 円

■ 費用以外も含めたメリット、デメリットの比較

車を所有

【メリット】

- ・いつでも自由に乗れる
- ・毎日乗る場合は費用が安い
- ・車という資産が持てる

【デメリット】

- ・購入費・維持費がかかる
- ・車の管理・維持のための時間が必要

カーシェアリング

【メリット】

- ・購入費・維持費が不要
- ・車の管理・維持にかかる時間が不要
- ・利用サービスによっては、いろいろな車に乗れる

【デメリット】

- ・借りたいときに借りられないことがある
- ・車内で喫煙できない、ペットを乗せられない等
使用上の制限がある

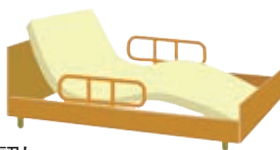
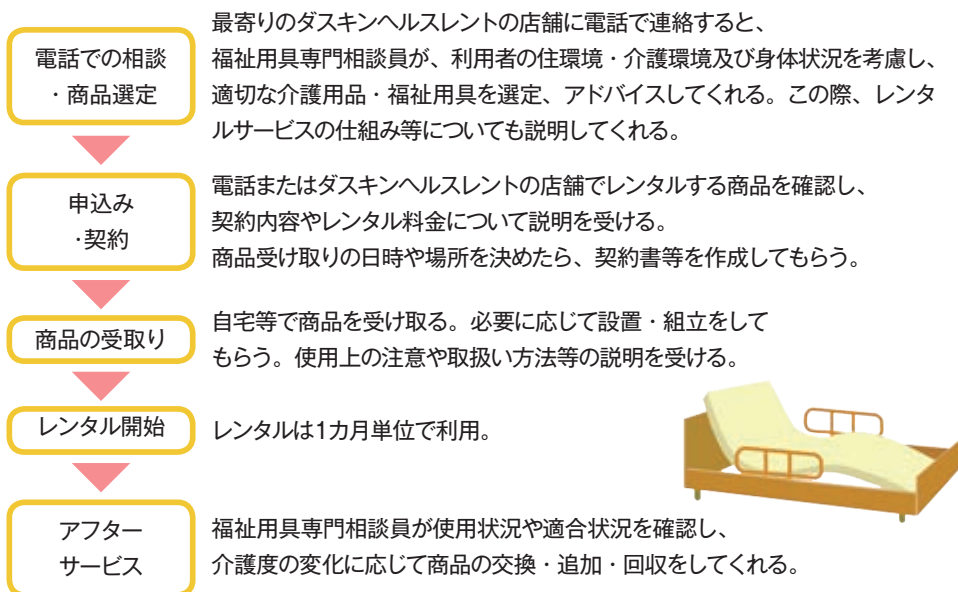
2時間利用×月3回×12カ月
1,648円×3回×12カ月=59,328円

12時間パック利用×月1回×12カ月
6,690円×1回×12カ月=80,280円

バック料金の距離料金1,640km
16円×1,640km=26,240円

利用料金合計
59,328円+80,280円+26,240円
=165,848円

【図表6】 レンタル介護用品・福祉用具の利用の流れ、利用料金の一例（ダスキンヘルスレントの場合）



【利用料金の一例】

■介護ベッド

通常レンタル料金 月額11,000円
(介護保険利用時負担額 月額1,100円)

※利用者の負担割合が変更となる場合は、介護保険利用時負担額も変更となる。

介護保険でレンタルするには？

「要介護（要支援）認定」が必要となる。レンタルする前に居住地域の窓口（地域包括支援センターなど）に相談し、申請のアドバイスや手続きの説明を受けなければならない。

■ベビー用品、介護用品・福祉用具のレンタル

Q どんなモノがレンタルできますか？

「ダスキンヘルスレントオール」では、ベビー用品としてベビーベッドやお食い初め祝膳等、トラベル用品ではスーツケースや海外用ドライヤー等、また、企業や自治体向けにイベント用品のレンタルなど多種多様な商品を取り揃えています。

「ダスキンヘルスレント」では、介護ベッドや床ずれ防止用具、手すり、車いす、スロープ等の介護保険に定められたレンタル商品13品目、約3100アイテムをラインアップしています。

Q 各々のレンタル商品BEST5と、レンタル期間の平均は？

当社におけるベビー用品と介護用品・福祉用品のレンタル人気商品BEST5は以下

下のようになっています。

「ベビー用品」

- ① ベビーベッド
- ② チャイルドシート
- ③ ハイローチェア
- ④ ベビーカー
- ⑤ ベビースケール



レンタル期間については、ベビーベッドなら3カ月～6カ月、ハイローチェアなら3カ月～4カ月が平均的なレンタル期間です。そのため、レンタル料金は、1カ月単位で設定しています。長くご利用いただくほど、おトクにお使いいただける長期割引、帰省や旅行などで短期利用されるお客さまのために短期割引もご用意しています。

「介護用品・福祉用具」

- ① 手すり
- ② 介護ベッド
- ③ 車いす
- ④ 歩行器
- ⑤ スロープ



レンタル期間については、お客さまの介護環境、身体状況によつて異なります。これらの変化に合わせて、利用者さまにとって適切な介護用品や福祉用具を選んでいただけるのが、レンタルのメリットでもあります。

Q メンテナンスや衛生管理はきちんとされているのですか？

お客さまから返却された商品は、各店舗



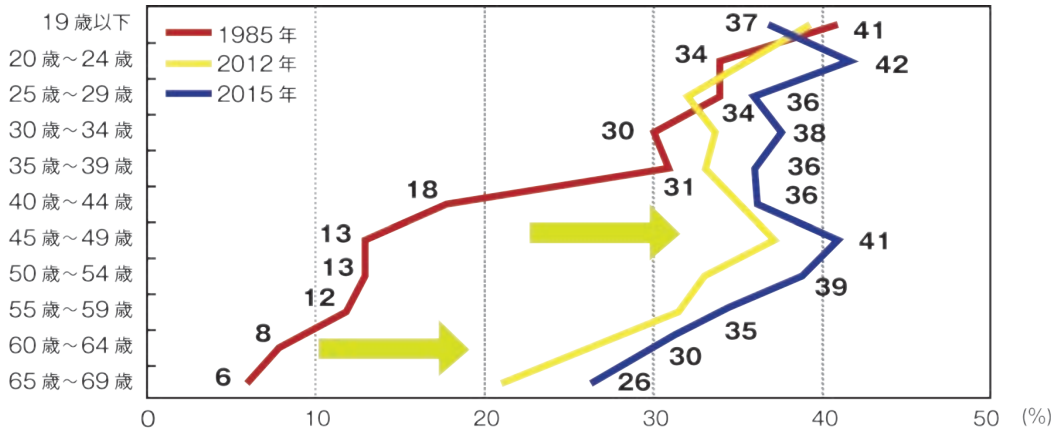
【図表7】 レンタルやリースに対する抵抗感の変化

質問：レンタルやリースを使うことに抵抗があるか？

A：レンタルやリースを使うことに抵抗はない。

B：自分の使うものは、なるべく買って自分のものにしたい。

＜「Aに近い」「どちらかと言えばAに近い」とする回答の割合＞



出典：『なぜ、日本人は考えずにモノを買いたいのか？』野村総合研究所 松下東子・日戸浩之・林裕之著、東洋経済新報社刊、2016年10月 図表3-4-1（「生活者アンケート調査」1985年、「生活者1万人アンケート調査」2012年・2015年）

でメンテナンスを行っています。衛生用品については、商品ごとに決められた手順と基準に従って消毒を行うほか、一部商品に関しては別途契約を結んだ指定事業者に洗浄・消毒を依頼しています。



ネットオークションやフリマアプリでの中古品の売買

環境負荷の観点から見ると、中古品を買ったり、不要になったモノを売るというのも一つの方法だ。中古品を売り買いするのに、ネットオークションやフリマアプリを活用する人が増えている。

ネットオークションやフリマアプリでは、出品者や購入者の評価システムが導入されていることが多いため、お互い誠意をもって対応しようという意識が働きやすくなっている。

とはいえ、モノや金銭のやり取りは、基本的に個人間での取引。つまり、何かトラブルがあったら、当事者間で解決するのが原則である。

売買にあたっては、規約やルール、商品の詳細、送料、振込方法等をしっかり確認し、リスクがあることも承知した上で、利用したい。



最後に、レンタルやリースに対する人々の意識について見てみたい。

【図表7】は、野村総合研究所が実施した「生活者アンケート調査」のうちレンタルやリ

■ レンタル、リースへの抵抗感は薄くなる傾向に

一部の商品については「レンタル動産保険」の適用が受けられる場合がありますが、一定の審査が必要となります。また、保険適用時の免責金額につきましてはご利用者さまのご負担となります。

Q レンタル中、万が一、傷付いたり、破損させた場合は？

通常の使用においてのキズ、汚れについては費用をいただきます。ただし、お客さまの不注意による破損は別途修理代をいただきます。

リースに対する抵抗感についての結果である。1985年時点では10代～30代に抵抗感の薄い人が3割以上いるのに対し、40代以上は抵抗感が強い。その約30年後の2012年、2015年は、40代以上についても抵抗感が薄れてきていることがわかる。これは1985年当時の10代～30代が40代～60代になっているためと推測される。加えて、エコ意識の高まりなどからモノの消費の仕方が見直されていたり、モノの所有へのこだわりが薄れてきているのかもしれない。

レンタルやリースは取扱いに気を遣ったり、うっかり延滞すれば料金がかさむなど注意は必要だが、上手に活用すると、家計の負担が減らせたり、処分する際の手間を減らせるなどメリットがある。買う前に一度検討してみる価値はあるのではないだろうか。

（取材・執筆／ライター 更田沙良）